

1

火山

白

赤土

①

②

③

④

つきひ

あ

げる

2

冬

1

冬ごもり

2

とり

3

いえ

4

木の
み
や
た
ね

5

ゆき

6

3

ウ

オ

エ

ア

イ

カ

①

②

③

④

⑤

⑥

4

水草

エ

1

2

3

ウ

イ

ウ

ア

①

②

③

④

配点

1 各2点 × 5 = 10点

2~4 各5点 × 18 = 90点

<計> 100点

① すべてやさしいはずである。ていねいに書くこと。

②

1 ここより前には「冬がくる前」「冬眠」とあるし、このあとにも「冬がくる」とある。

2 すぐ前に「もうすぐ冬がやってくる」とある。冬にそなえていえをつくるのだから、冬眠をするため、つまり冬ごもりをするためのいえである。

3 前のほうに「森にいたとりたちはもう、南のほうへとびさっていました」と書かれている。

4 すぐあとで「このあなの中に、たべものをうんとためて、あとから入り口を小石やこけでふさいだら、最高の冬ごもりのいえになる」と書かれている。

5 前のほうには「たべものにこまらないように、たねもたくさんあつめよう」とあったが、「たね」だけでは六字にならない。これよりあとに「せっせと木のみやたねをあつめました」とある。

6 すぐあとの文では「ぼく」といっているので、タルーンのことばだとわかる。おわりは「くるがいい！」までになる。

③

① びっくりするようすをあらわす。

② ニュースやうわさをしているのはやいことである。

③ じまんできるようなようすをあらわす。

④ 「ほうほう」といういみになる。

⑤ あるきつかれたことである。

⑥ おこってしまうことである。

④

1 文章ぜんたいが、なにについて書かれているかをかんがえる。文章中にくりかえしてでてくることばがたいせつである。

2 水は「いきっていくのにひつよう」とあるので、アは水草にとってよいじょうけんである。イは「それに」としてアとならべているので、これもよいじょうけんといえる。ウは「つよい風」がないと、ふきたおされないので、これもよいじょうけんになる。エは、空気が「こきゅうにひつよう」なので、よいじょうけんとはいえない。

3 ①は「地中にのばして」とむすびつくもの。②は「からだをささえる」から、すぐにわかるだろう。③も「地中に」とある。④は、すぐ前の文の「葉を水面上に出している」をせつめいしたものである。